

「隠蔽環境の生物多様性—発見の科学と生物進化の実験場—」

日時：_9月17日(木)17:30～

会場：_静岡グランシップ

企画責任者：_塚越哲(静岡大学理学部)

私たちの視線を遮る隠蔽された世界にも様々な生物が生息していることが知られています。しかし、これらの生物に関する情報はまだあまりにも少ないといえましょう。これら隠蔽環境に生息する生物については、私たちは未だ大航海時代、博物学の時代にあるといえます。すなわち私たちにとって、新分類群の発見はもとより、新たな生物学的知見を増大させることができるという、純粋な好奇心を満たせる世界であるといえます。同時に、光の遮断、狭い空間、貧栄養等、一定の環境的制約下における生物は、様々な形態学的・生態学的特性を備えており、生物進化を理解する上で多くのヒントをもたらします。

ここではまず、ベテラン組から「発見の科学」として、間隙環境、海底洞窟、土壌中、そして太古の海底洞窟の化石生物にまで眼をむけ、生物多様性に関する既成の概念を塗り替えるような、隠蔽環境に生きる生物の実態を紹介します。

◆間隙生物の多様性 —貝形虫類(甲殻類)を例に—:塚越 哲(静岡大学・理学部)

◆海底洞窟と近底層における生物の多様性とその進化:大塚 攻(広島大学・院生物圏科学)

◆土壌の bioturbation —土壌生物の多様と土壌構造の関係—:金子信博(横浜国立大学・院環境情報)

◆隠蔽環境の化石動物種群 —4.5億年前の石灰泥丘型礁を例に—:鈴木雄太郎(静岡大学・理学部)

また、大学院生からは「進化の実験場」として、隠蔽環境ではどのような進化の様式が見出されるかを、彼らが導き出した最新データから議論します。

◆分子系統解析からみえてくる動物の“間隙性化” —シセレ上科貝形虫類を例に—:東 亮一(静岡大学・院創造科学)

◆小型甲殻類における目の退化:梶 智就(静岡大学・院創造科学)

◆間隙性動物における性選択と進化:田中隼人(静岡大学・院創造科学)

さらにもし可能ならば、隠蔽環境に生息する生物の研究が、「化石からDNAまで」を包括的に扱う総合的な生物科学として発展しうるか、というポテンシャルについても見極めてゆきたいと考えております。